地域における青少年の国際交流推進事業　徳島サマースクール
委託事業成果報告書

１　事業概要

県内の施設を有効活用し，高校生が，英語を通して多様な価値観を持った国内外の同世代の若者と交流することで，自己を探究し，夢や希望に向かって主体的に行動できるグローバル人材を育成した。

２　実施期間

平成３０年８月１６日（木）～平成３０年８月２２日（水）

３　実施場所

学習場所　牟岐町海の総合文化センター
徳島県海部郡牟岐町大字川長字新光寺８２
宿泊場所　徳島県立牟岐少年自然の家
徳島県海部郡牟岐町大字灘字東谷１１６－３５

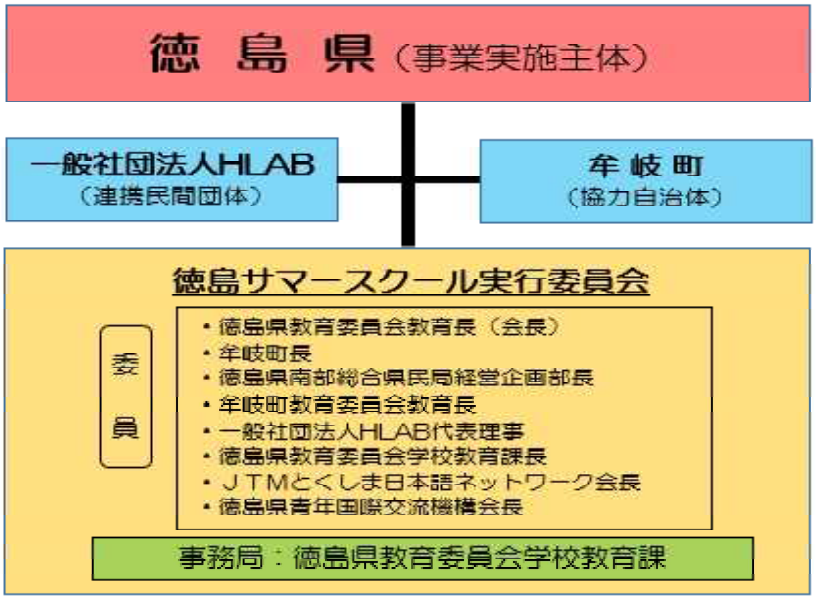
４　参加者

高校生　県内３０名　県外２０名　計５０名
海外大学生　アメリカ合衆国　１３名　イギリス　１名　計１４名
日本人大学生　２８名
スピンオフ企画参加中学生・高校生　３４名

５　実施事業体制

（１）運営組織

事業主催は徳島県（教育委員会）。協力自治体が牟岐町で，連携先民間団体が一般社団法人HLAB。徳島県教育委員会教育長ほか７名の委員で構成する「徳島サマースクール実行委員会」において，事業計画，プログラム内容等の決定を行う。また，徳島県教育委員会担当課に置く事務局において，会計事務を行うとともに，関係先と協議しながら事業実施に向けて準備を進めた。

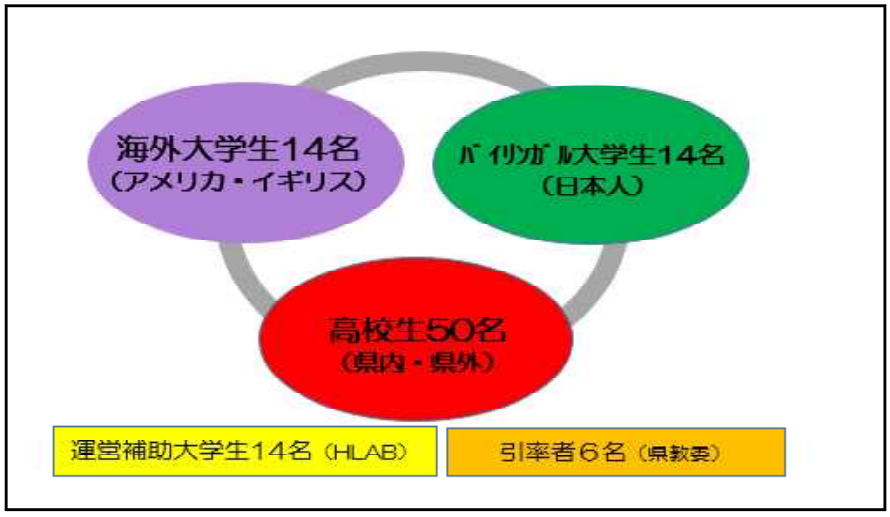


（２）高校生の学びの支援体制

高校生，海外大学生，日本人バイリンガル大学生を７つのハウス（生活グループ）に編成し，英語をベースとした多様な交流プログラムをとおして，高校生の学習効果が高まる学びの支援体制を構築した。

日本人バイリンガル大学生は，英語を日本語に通訳するのでなく，英語を使用する同世代の日本人モデルとして，高校生と海外大学生をつなぐピア・サポート役を担った。

徳島県の高校生に多様な交流機会を提供するため，県外の高校生も２０名募集した。




６　主なプログラム

（１）セミナー

海外大学生と日本人バイリンガル大学生の計２名，高校生３～４名を１グループとして，大学での学びを体験できる少人数制の授業。幅広い１４のテーマから，高校生が自分の関心に合わせて２つを選択する。

本年度のセミナーのテーマ

- The World of Social Entrepreneurship and Innovation
- Marine Conservation and Sustainability
- Practice Medicine
- Diving into Behavioral Economics
- You Can Compose Too!
- Intro to Feminist Studies
- Expressing Ourselves through Movement
- Do Humans Change Language or Does Language Change Humans?
- Introduction to Creative Non-fiction
- Western Art and Architecture
- Crafting a Story: the Art of Filmmaking
- Am I Being Manipulated? Yes.
- Connecting with People: the Nuts & Bolts of Building Relations
- Arduino Programming

（2）フォーラム
　社会の第一線で活躍する方を講師に迎え，「いま高校生に伝えたいこと」をテーマに講演やパネルディスカッションを行う。

（3）ワークショップ
　設定されたテーマのもと，ファシリテーターに従って参加者同士意見を交換しあい，集約した意見や作品として成果を生み出す。
　文化体験ワークショップでは，徳島県南部の特色ある文化や伝統を体験しながら，地元の方とのふれあいをとおして県南地域の魅力を再発見し，日本人としてのアイデンティティの確立を目指す。

（4）フリーインタラクション
　専門性や経験を生かし，主に徳島県内で活躍する社会人をゲストとして迎え，高校生，大学生と少人数グループでフリートークを行う。

（5）スピンオフ企画
　サマースクール期間中，地元である県南３町在住の中学生と地元高校に通う高校生に，プログラムを一部開放。県南中高生に英語を使う機会を提供するとともに，県南の中学生と高校生の交流を促し，中学生の進路選択及び県南部の高校の魅力化に貢献する。

７　活動内容
■１日目：８月１６日（木）
・高校生バス移動（徳島駅前→会場）
〇開会式
〇海外大学生企画
〇体育館でスポーツ・交流活動（雨天のためキャンプファイヤーは中止）
〇リフレクション（ハウス単位）

■２日目：８月１７日（金）
〇海外大学生による少人数セミナー①（90分×２コマ）
〇知事セミナー　（講　師：徳島県知事　飯泉　嘉門）
　参加高校生が，「徳島をもっと素敵にするために」をテーマにグループディスカッションを行い，話し合ったことを発表
　知事は講評及び質疑応答対応
〇フォーラム①
　テーマ　「人工知能の未来の可能性」「研究者としてのキャリア形成」
〇フリーインタラクション①
　・７名の社会人との自由な意見交換
〇リフレクション（グループごとでの一日の振り返りの時間）

■３日目：８月１８日（土）
〇海外大学生による少人数セミナー②（90分×２コマ）
〇町の人昼食会　地元協力団体の方との交流
〇フォーラム②
　テーマ　　「進路選択」
〇フリーインタラクション②

・７名の社会人との自由な意見交換
〇リフレクション

■４日目：８月１９日（日）
〇海外大学生による少人数セミナー③（90分×２コマ）
〇スピンオフ企画　オプショナルワークショップ
スピンオフ参加中高生３４名が合流し，全体を４ワークショップに分けて文化体験
・海陽町：藍染め体験，坐禅体験
・牟岐町：出羽島（重要伝統的建造物群保護地区）散策
・美波町：町内（薬王寺，うみがめ博物館）散策
〇スピンオフ企画　エンカレッジ企画
・郡内唯一の高等学校である海部高校の高校生が，郡内中学生に対し学校の魅力を伝えるプレゼンテーション
・海外，国内大学生とスピンオフ参加者の話し合い活動
〇スーパーリフレクション（高校生のみの振り返り活動）

■５日目：８月２０日（月）
〇Vision ワークショップ
１年先の自分を思い浮かべながら今やるべきことについて考える未来指向型ワークショップ
〇自己分析ワークショップ
自己理解のための講義及びペアワークでのワークショップ（２部構成）
〇タレントショー
※高校生，大学生が特技を披露
〇リフレクション

■６日目：８月２１日（火）
〇アウトプットセミナー
海外大学生による少人数セミナーで学んだことや考えたことについてグループごとに英語でプレゼンテーション
〇ワークショップ
・地域の食文化　かつおのたたきワークショップ
・地域伝統文化　行灯作成ワークショップ
〇リフレクション in the dark
※行灯の薄明かりのもと，グループ単位で振り返り

■７日目：８月２２日（水）
〇閉会式（修了書授与，参加高校生らによる感想発表など）
〇メモリアルタイム（７日間の振り返り）
〇親睦会（高校生ほか関係者出席）
・高校生バス移動（会場→徳島駅前）

セミナー

フォーラム

リフレクション（一日の振り返り）

社会人との座談会

知事セミナー

スピンオフ企画

セミナーでの学びを共有

行灯作成ワークショップ

かつおのたたきワークショップ

閉会式

８　事業の成果

（１）参加者へのアンケート　（別添参照）

参加前・参加後に同じ質問項目のアンケートを実施したところ，次の４要素で２０パーセント以上の肯定的な変化が見られた。

- 要素Ⅰ－①語学力，②コミュニケーション能力
- 要素Ⅱ－②チャレンジ精神，③協調性・柔軟性
- 要素Ⅲ－①異文化理解，②日本人としてのアイデンティティ
- 外向き志向

（２）参加高校生の声

- 海外大学生が普段勉強していることについて知ることができた。これまでは，学部などについては抽象的に知っているだけだったけど，どんなことをするのか具体的に分かった。
- 一生付き合っていける友人ができた。将来や理想の人物像を描くことができた。
- 限られた人生の中で，進路や将来について明確に考えることは，明日を生きていくために必要な事だと気づかされました。
- このサマースクールにきて，自分のやりたいことや夢をよりクリアに持つことができ，そこまでの道が明確になった。
- 自分の素直な意見を他の人に共有できたことや，人が自分の意見を真剣に聞いてくれて，自分も他の人の意見もたくさん聞くことができたことがよかった。
- こんなにも自分が素直になれる場はないです。本音を本気で語り合える関係・経

験は私にとって大きな財産になりました。
- こんなにいろんなバックグラウンドをもつ人がいるとは思わなかった。
- 今までこんなにも深く同じ年の人達と話し合えたことはなかった。人生について語り合うことがとても楽しいと感じた。
- 自分と同じ高校生が，懸命に英語を話していることに刺激をうけた。
- 英語のプレゼンは，準備も大変だったけど，その分大学生や他のメンバーとの絆も深まったし，英語も好きになった。

（3）その他の成果
- 参加高校生が高校生英語スピーチコンテストに参加。1名は県大会を勝ち上がり，四国大会に出場。
- 参加高校生が，徳島県主催事業の高校生「ジュニア観光ガイド」養成講座で，「ジュニア観光ガイド」として活躍。
- 参加高校生が，県内の外国にルーツを持つ親や子どもたちのための団体を設立し，活動を開始。

９　「８　事業の成果」の分析及び改善に向けた方策

本事業の目的である「外向き志向」の上昇に関しては，アンケートの結果から見るとおおむね達成できたと言える。特に「日本人として世界に貢献したい」という外向き志向要素の上昇は，自分たちのために来日しプログラムに参加してくれた外国人を見て，将来は自分も同じように貢献したいという気持ちになったことや，「セミナー」でグローバルな社会課題を扱ったことなどによるものであると考えられ，様々な企画が，プログラムの目的の達成に有効であったと判断できる。なお，「交流した外国の人と将来もつながりを持ちたい」という外向き志向要素については，参加前よりすでに９０％近くが交流を希望しており，２０％以上上がる要素がなかった。

一方，事後アンケートで数値が下がった項目は，異文化理解の「交流国の歴史を理解している」，日本人としてのアイデンティティの「日本の文化（日常生活等）を説明することができる」「日本の歴史を説明することができる」の３つであった。交流国の歴史に関しては，事前でも数値は高くなかったが，招へいした海外大学生が様々な文化的・民族的バックグラウンドをもっており，その歴史については未知であることを正直に回答した結果だと思われる。日本人としてのアイデンティティを示す項目で数値が下がったのは，海外大学生の日本の日常生活や歴史についての興味のありようが高校生にとって想定外であったり，英語力の不十分さで説明しきれなかったりしたためだと思われる。参加者自身が，このような体験や感想が今後の成長につながっていくことを意識できるようなまとめを何かの形で行うことも考えていきたい。

全体をとおしての課題としては，行動面においては必ずしも全員が同レベルでの積極性を示していたとは言えないことである。英語力が十分でない生徒は，他の生徒や日本人大学生の助けを借りて交流する場面もあった。それは以前からの課題でもあったため，今年度は，全員が英語を使用して自分の考えを言う場である「アウトプットセミナー」を設け，全員に達成感を味わってもらうようにしたところ，参加者の反応もよく，一定の成果はあったと思われる。今後は，参加者全員に対し，海外大学生と英語で直接交流する場をもっと提供し，それによって意識面と行動面がより合致していくよう努めたい。